

## 🏠 市場価格

ドル建て      ドル/toz

Platinum	Price	Date
Open	844.50	2023/11/13
High	910.95	2023/11/17
Low	844.50	2023/11/13
Close	902.49	2023/11/17

円建て      円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4112.00	2023/11/13
High	4407.00	2023/11/16
Low	4112.00	2023/11/13
Close	4341.00	2023/11/17

ドル建て      ドル/toz

Palladium	Price	Date
Open	963.70	2023/11/13
High	1059.75	2023/11/17
Low	949.11	2023/11/13
Close	1052.90	2023/11/17

円建て      円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	4705.00	2023/11/13
High	5102.00	2023/11/16
Low	4650.00	2023/11/13
Close	5082.00	2023/11/17



## ニュースエクスプレス

### プラチナ鉱山、価格下落局面への対応迫られる

インバラ・プラチナムは人件費削減の一環として、ルステンブルグ PGM 鉱山で希望退職を募る。自動車産業の需要が大きいパラジウムとロジウムなどを含む南アフリカのバスケット価格は、今年は4割以上も下落している。インバラの西リム鉱山からの PGM 生産は約 25% がパラジウム、約 7% がロジウムとなっている。2022年のインバラ（シバコニエ・ステイルウォーターとアングロ・プラチナムでもそうだが）は、鉱山関係の費用がインフレの影響で約 6.5%上がったことと、労働組合との交渉によって新たな5年契約が結ばれたことと人件費が上がっている。シバコニエ・ステイルウォーターも鉱山寿命が近く、経済性の下がった鉱山2カ所で人員カットが行われる可能性を発表した。

これは PGM 生産者の利潤確保に対する素早い対応の一環と言えるが、プラチナ供給への影響はあまりない。南アフリカの今年のプラチナ生産は130.6トン、2024年は少し増えて136.8トンとなる予測だが、PGM 価格が引き続き下落すれば、コスト削減の動きがプラチナ生産にも影響を及ぼす可能性もある。

[https://www.heraeus.com/media/media/hgen/doc\\_hgen/precious\\_metal\\_updates/en\\_6/Appraisal\\_20231113.pdf#mduytrnd=nmvls-dhsk\\_k\\_pgmwvlyfytidsl\\_humbe60hnp](https://www.heraeus.com/media/media/hgen/doc_hgen/precious_metal_updates/en_6/Appraisal_20231113.pdf#mduytrnd=nmvls-dhsk_k_pgmwvlyfytidsl_humbe60hnp)

### ジョンソン・マッセイ、水素燃料原料のリサイクルに 'HyRefine' 技術

ジョンソン・マッセイ (JM) は燃料電池と水電解装置に使用される材料のリサイクル技術「HyRefine」の実験段階を終えたと発表した。同社によると、これは PGM 材料とアイオノマーの両方のリサイクルとしては初の試み。

同社の研究者らによって、PGM とアイオノマーはどちらもリサイクルでき、触媒をコーティングした新たな固体高分子膜として、燃料電池と水電解装置に利用できることが証明された。別の実験によれば、リサイクル材料から作られた PGM 触媒と新しい触媒との間の性能には差は見られないとしている。

JM の Platinum Group Metals Services のチーフ・エグゼクティブを務める Alistair Judge氏は、この進展について「これは我々の「HyRefine」技術が燃料電池と水電解装置を求める両方の顧客に対して、循環性のあるサービスを提供できる重要な一歩である」とコメントを発表した。

「今回の実験結果は、基盤となる我々のPGMのエコシステム、世界の先端をいくリサイクル技術、長年にわたって開発してきた水素燃料技術を利用し、いかに水素経済に循環性を持たせられるかという課題に対する成果と言える。」

<https://en.news/boost/johnson-matthey-hydrogen-fuel-cell-electrolyzer-recycling-technology>

Translated by Kanako OSAWA



## WPIC直近の活動

国際海事機関 (IMO) は、今年初めに船舶の排気削減目標を定め、2050年までにネットゼロ達成をゴールに、そこに至るまでのいくつかの積極的な中間目標を決めた。エネルギー効率と柔軟性の高い燃料電池は、海運にとってネットゼロ達成が実現できる魅力的な選択肢だ。さらに燃料電池は排気ガスゼロ、そして業界規制にも適合しているのだ。各地では画期的なプロジェクトが始まっている。詳細は**WPIC豆知識—海運のプラチナ**をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2023/11/16>



@wpi2023

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を勧誘するものではありません。また、そのように解釈されるべきではありません。